

えんぽとたんぽの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 224 号	2020年3月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：原谷 一誠
---------------------------	-------------	--

1. 活動報告（事務局 記）

— 3月1日（日）会員12名が参加し、水車流入水路の改修（集水桝の設置）、樹木の剪定、ため池内の除草の作業を実施しました。作業の前には、今年度の会計と来年度の日程（特に収穫祭）の事項について話し合いを行いました。

— 3月3日（火）～10日 臨時活動

- イ）草原ゾーンの繁茂木々の伐採材の焼却と追加伐採
- ロ）水車水路の溜池取り入れ口より下流の溝上げと暗渠部の浚え実施
- ハ）パイプ組の物置小屋屋根の茅葺屋根の葺き替え実施

— 3月21日（土）会員16名が参加し、ため池の除草、伐採された竹の処理、湿地帯の浚渫（ガマの除去）の作業を実施しました。なお湿地帯の浚渫は業者に依頼し、バックホウを用いて行いました。午後からは会計監査を実施し、監査役の承認をいただきました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎行 事

- 4月5日（日）令和2年度総会
- 4月18日（土）親子自然観察隊（結隊式、食べられる野草）

3. 来訪者の声

今回はありません。

4. 会員の声 「 創設20周年記念に向けて 」

① （松本 フデ子 記）

水車が回らなくなって久しい。地元の木を探して運んで植えた木々も繁りすぎ景観を損ねていると切り揃える程に。手に負えなくなった植物への対応等々。色々な問題に、我々会員もこのビオトープと共に20年の年月を過ごし自力での対処に追いつけなくなって来たようだ。しかし20周年記念と言う大きな区切りに対して、水車を回そう、機械の力にちょっと助けてもらって等と少し気持ちを振るい立たせて頑張っている。この記念イベントに参加して下さる方々により良い姿を見てもらえる様に。二俣瀬ビオトープの存続を願いながら価値ある環境を守り続けていきたい。そして後に続いて守ってもらえる人々の参加を望みながら。

② （副会長 田村 勝芳 記）

えんぼとたんぼの始発駅里山ビオトープ二俣瀬が20年前に始まりこれまでつづいてきたことは会員にとって素晴らしいことです。これからも自然環境教育の場、二俣瀬のアピール、市民憩いの場、の基本コンセプトを大切にしていける事を会員で考えていきたいと思います。またパンフレットも新しく作り直していきたいと思います。

③ （中本 亜矢子 記）

里山ビオトープをつくる会結成20周年おめでとうございます。

つくる会の活動で私が誇れる唯一のことは、発足時から参加していることです。当時、私は30代で子どもたちは小学生でした。子どもたちに自然に触れる体験をさせたくて自らボランティアに志願しました。共働きの上週末は少年野球をしており、月2回の活動（作業、自然観察隊）は参加が厳しいことも多々ありました。しかし家族の協力やつくる会のみなさんのご理解のもと、何とか活動を続けてこられました。

自然観察隊は2003年から始まりました。初代隊長は原谷さんでした。原谷さんが体調を崩され存続が危ぶまれましたが、2011年に管さんが隊長を引き継ぎ親子自然観察隊として再スタートし、今に至っています。

子どもたちは観察隊で四季折々の草花や虫、鳥や水生動物に親しみ、伸び伸びと育ちました。身近な生き物に関心を持ち慈しむ心を育てていただいたと感謝しています。

今は観察隊の副隊長として関わらせていただいております、毎年親子のみなさんとビオトープで楽しい時間を過ごさせていただいております。

つくる会がある限り関わっていけたらと思っております。これからもよろしくお願いします。

④ビオトープ開設20周年に思う （管 哲郎 記）

私が会員になったのが開設して数年後だったと記憶していますが、少なくとも15年はお世話になっているはずです。会員も高齢になり、ビオトープの管理作業が一段と陰しくなってきたようで、エコアップ作業や草刈り、ため池の雑草除去作業には参加される会員も決まってきたようにみうけられます。しかし、他の自然保護団体では、このような作業を20年も継続して行うことはないようで、手前みそかもしれませんが、「ビオトープをつくる会」はいろんなご批判があるかもしれませんが、私は素晴らしい団体であると自負しています。また、すべて手弁当で行い続けてきましたし、特に地元の会員の方々の努力なしにはここまでの継続は不可能であったと確信しています。

フィールドの維持管理は地元の農家の経験がなければできません。雨が降れば溝が詰まり、その都度ゴミや枯れ葉を取り除き、イノシシが畦や道路際を荒らしますが、その都度道路の補修を行います。お米作りにはいろいろな作業が入ります、自分の収入にはなりませんが、それでも田んぼを作らねばなりません。このような作業は全て地元の会員の力によるもの、市街地に棲んでいる会員は、そういったお話を聞くだけです。

会員数は40名ほどを数えていると思われませんが、エコアップなどに出席していただける会員は10名そこそこです。年1回でも結構ですので、子供たちの喜ぶ笑顔を思い浮かべ、作業に出ただけしたら、またもう少し継続できそうにも思えます。若い皆様の力が私たち熟年の力の原動力になりますので、これを機会に1回でも結構です、参加していただくと嬉しく思います。

5. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 （ 管 哲郎 記）

(49) キタテハ *Polygonia c-aureum* （タテハチョウ科）

成虫で越冬し3月上旬～12月まで見られますが、その間年3～5回羽化し発生します。日本全土で見られますが、最近では北海道では見られなくなったようです。中型の蝶ですが林縁、農地、公園、人家、河川、鉄道の土手などでよく見られます。食草はカナムグラやホソバイラクサなどですので、草地に多いのはそのためでしょう。

翅の表は橙色で黒斑が広がっています。翅を閉じると茶褐色で枯れ葉をちぎったような形をしていますので、止まった姿を捜すのは苦勞します。しかし、草の上に止まることが多く、黄色い色が良く目立ちますので、草地で見つけるのは簡単です。

肌寒い3月ごろからフィールドに現れます、ほかの蝶が少ない時には特に目立つ蝶です。そっくりさんに「シータテハ」がいますが、中国地方では高山地域にしか生息しません、山口県には1,000m以上の山が殆どありませんので、見られることはないと思われます。



キタテハの飛翔 下関市



キタテハ♂



シータテハ♂ 長野県



シータテハ♂ 長野県

参考文献

須田真一・永幡嘉之 他、2012. フィールドガイド日本のチョウ. 327pp. 日本チョウ類保全協会. 東京.

工藤誠也、2018. 美しい日本の蝶図鑑. 335pp. (株) ナツメ社. 東京.

6. 会よりの連絡事項

- 1) ビオトープ入口墓地横の路肩工事が完了し車の離合が容易になりました。そこでこのコンクリート石垣部分に「里山ビオトープ二俣瀬」の看板を製作表示は如何でしょうか？市道からの宣伝に抜群の効果があると思います。※20周年を記念し宇部市からの寄贈等の考えもあります。
- 2) 社団法人「緑豊舎」(二俣瀬田の小野)より薪用木材等受領 薪になっていない長物もあり運搬済
- 3) 4月5日は里山ビオトープ二俣瀬をつくる会の総会です
イ、場所は従来のふれあいセンターがコロナウイルスによる貸出禁止の為、ビオトープ東屋にテントを張り9時より行います。
ロ、年会費1,000円を必ず納金できる様手配願います。

7. 編集後記 (中本 亜矢子 記)

この時期、いつもは花粉の飛散が話題になるが、今年はコロナウイルス一色である。こんな社会になるなんて、数カ月前までだれも予測できなかったのではないだろうか。

3月から小中高が休校になり、不特定多数の人が集まるイベントや会の開催に躊躇するようになった。そんな中で、3月1日のビオトープの作業はいつも通り行われ、誰もマスクをしていなくてほっとした。外での作業なので感染のリスクは低いだろうとのことだった。

マスクもトイレトペーパーも、必要な人が購入できるよう店頭に戻ってきてほしい。一日も早く穏やかな日常が過ごせるようになることを願っている。